掛川で「地域部活動」活発

吹奏楽や合唱、演劇、ダンスなど文化系

学校の枠を超えて子どもたちが一緒に取り組む「地域部活動」が県内各地で広がる中、掛川市内で文化系の地域部活動が盛り上がりをみせている。2021年は音楽分野の活動を推進するNPO法人「掛川文化クラブ」が発足し、表現や制作など多様なジャンルを融合した「パレット」は創部4年目を迎えた。関係者らは「子どもたちが身近な地域で、質の高い芸術活動に取り組むことができる」と意義を語る。

児童生徒や楽団員が合同で練習した吹奏楽交流会＝11月下旬、掛川市生涯学習センター

掛川文化クラブでは現在、小中学生約25人が吹奏楽、合唱、弦楽を練習している。指導に当たるのは主に地元の楽団や大学生ら。市教委と連携して地元中学校の吹奏楽部を交えた合同練習も行い、11月末には市生涯学習センターで約100人が参加する交流会を開担った。

教員の働き方改革や少子化による部員の減少、活動の多様化への対応として注目される地域部活動。ただ、活動を維持するための経費や人材確保などの面で課題は多いという。

掛川文化クラブは初心者でも参加しやすいように楽器を貸し出しているが、数が不足。地元からの寄付による対応を模索する。パレットは芸術分野のプロが創部

「学校や世代超え 楽しむ空間に」

いた。市立桜が丘中の中村寧音さん(14)は「丁寧な指導でわかりやすかった」とパートごとの練習に手応えを感じていた。

パレットには中学生ら43人が在籍し、演劇やダンスに加えて舞台技術やプログラミングなど多彩なジャンルに挑戦する。秋に市内で開かれた地域芸術祭「かけがわ茶エンナーレ2020＋1」では開会式の企画・演出を時の講師を務めたが、現在は自主性を尊重して子どもたちを中心に活動し、活動費を抑えている。

掛川文化クラブの佐藤真澄理事長(64)＝掛川西高教諭＝は「学校や世代を超えて音楽を楽しむ空間を作りたい。部活動の受け皿になることができるよう活動機会を広げることができれば」と意欲的だ。

（掛川支局・伊藤さくら）